

津波情報

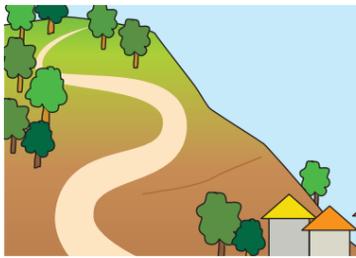
原子力災害時の対応

津波から身を守る

旅行や出張などで海の近くにいるときは地震発生直後に津波が押し寄せることがあるので、強い地震が起きたときは、直ぐに海岸から離れ、高台などの安全な場所に避難しましょう。また、比較的小さな揺れでも、長時間ゆっくりとした揺れの地震は「津波地震」と呼ばれ、大津波が発生する場合がありますので避難が必要です。

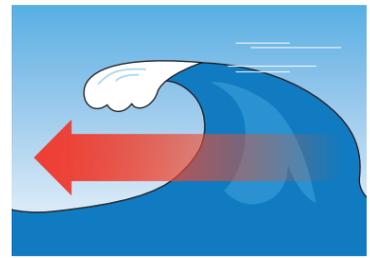
高い場所へ避難する

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



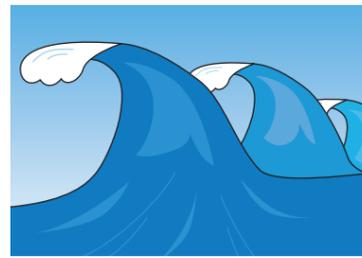
津波のスピードは速い!

「注意報」や「警報」が出る前にくる津波もあります。直ちに避難しましょう。



津波はくり返し来る!

津波は2回、3回と襲ってきます。波が落ちつくまでは注意しましょう。



正しい情報を聞く

ラジオ・テレビ・防災無線などで、正しい情報を聞きましょう。



海岸や河川に近づかない

注意報、警報が解除されるまで海辺や河川には近づかないように。



自動車で避難しない!

道路が崩壊した場合、渋滞して緊急車両の妨げになるので自動車での避難はやめましょう。



情報の種類と発表基準

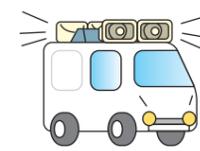
| 予報の種類 | | 解説 | 発表される津波の高さ |
|-------|-------|--------------------------------------|--------------|
| 津波警報 | 大津波 | 高い所で3mを超える津波が予想されますので、厳重に警戒してください。 | 10m以上 10m 5m |
| | 津波 | 高い所で1mを超え、3m以下の津波が予想されますので、警戒してください。 | 3m |
| 津波注意報 | 津波注意報 | 高い所で0.2m以上1m以下の津波が予想されますので、注意してください。 | 1m |

もし原子力災害が起きたら

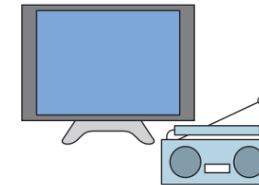
原子力災害とは原子力施設から放射性物質が漏れ、周辺に被害が生じることをいいます。放射性物質とは放射線を出す物質のことで、放射線を出す能力のことを放射能といいます。原子力災害の程度は人間が感じ取ることができないため、放射性物質に関する基本的な知識と正しい対処法を身につけることが重要です。

正確な情報を入手してください

原子力施設で事故等が発生した場合、自治体などはテレビ・ラジオなどの報道機関を利用して、住民に必要な情報をすみやかに知らせます。



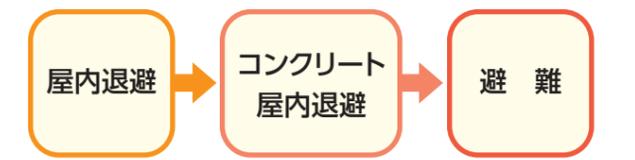
エリアメール・緊急速報
メール・広報車などの
情報に注意する



テレビやラジオから
正確な情報を入手する

防護対策が必要になります

防護対策とは、放射線や放射性物質が大量に放出された際に、周辺住民などの被ばくをできるだけ低減するために講じられる措置です。住民が受けると予想される線量が一定の指標を超えるような場合に、「屋内退避」「コンクリート屋内退避」「避難」といった指示が出ます。



退避や避難の指示が出たら

屋内退避

屋内に退避すると、屋根や壁で放射線をさえぎることができます。屋内退避には、自宅など一般家屋に入るものと学校などのコンクリート建屋の中に入るものがありますが、予測被ばく線量が小さい場合には一般の木造家屋への退避でも放射線の影響を十分に軽減することができます。



屋内退避で取るべき行動

屋内退避の指示が出たら、すみやかに自宅などの建物内に入り、ドアや窓を閉めるなどの対策を取ってください。

コンクリート屋内退避と避難

コンクリート建屋は、木造家屋よりも放射線をさえぎる能力が高く、より高い防護効果が期待できます。また避難とは、現在住んでいる場所から放射線の影響が少ない安全な場所に移動することで、放射線や放射性物質の放出が長時間にわたると予想される場合に実施されます。



避難等の際に取るべき行動

避難等の指示が出たら、まず指示の内容をよく確認して、あわてず落ち着いて行動してください。また、どこの区域の人が対象か、正しく情報を把握しましょう。